

ゆずり葉の季節

はる

〔演劇公演〕

〜最期まで地域で暮らすために、
在宅での医療や介護について考えませんか〜




絵／石川 拓人

2019年 **8月25日(日)** 根室市総合文化会館小ホール (全席自由)
開演／14:00(開場30分前)

●料金／大人2,000円 学生(高校生以下)1,000円 親子券(大人1人+学生1人)2,500円
(小学校低学年以下の入場はご遠慮ください。)

【チケット取り扱い】・根室市総合文化会館 TEL0153-24-3188・みなさまのおみせ すずき TEL0153-23-4567

・  pia.jp/t (Pコード: 495131) セブンイレブンで購入可
0570-02-9999

主催：公益社団法人教育演劇研究協会／劇団たんぽぽ 協賛：一般社団法人根室市外三郡医師会

後援：北海道、北海道教育委員会、北海道医師会、一般社団法人北海道歯科医師会、一般社団法人北海道薬剤師会、公益社団法人北海道看護協会
北海道訪問看護ステーション連絡協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、公益社団法人北海道社会福祉士会、一般社団法人北海道介護福祉士会
一般社団法人北海道介護支援専門員協会、一般社団法人北海道町内会連合会、根室市、根室市教育委員会、社会福祉法人根室市社会福祉協議会、
中標津町、標津町、別海町、羅臼町、北海道新聞社、AIR-G'エフエム北海道



文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
独立行政法人日本芸術文化振興会

厚生労働省推薦

劇団たんぽぽ北海道・静岡県・香川県・徳島県巡回公演

「社会医療法人平成醫塾苫小牧東病院 開院30周年記念事業」

ゆずり葉の季節

はる

大切な人の最期の思いを叶えるために

在宅での医療や介護について考えませんか
最期まで地域で暮らすために、



絵/石川 拓人

2019年 8月29日(木) 苫小牧市文化交流センター多目的ホール (全席自由)

開会 18:30(開場 30分前) 料金 前売 1000円 当日 1500円 学生(高校生以下及び学生証をお持ちの方) 1000円

①お話し～大切な人の最期の思いを叶えるために～

- 公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協苫小牧病院
在宅診療部部長 医師 伊賀勝康先生
- 一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 苫小牧地域訪問看護ステーション
所長 看護師 大澤佐登美先生

②劇団たんぽぽ公演『ゆずり葉の季節(はる)』(19:00～)

(小学校低学年以下の入場はご遠慮ください。)

【チケット取り扱い】

- ・苫小牧市文化交流センター TEL0144-33-8131
- ・苫小牧西子ども劇場 TEL0144-74-4775
- ・苫小牧市民会館 TEL0144-33-7191



pia.jp/t
0570-02-9999

(Pコード: 495767)

セブンイレブンで購入可

主催: 公益社団法人教育演劇研究協会/劇団たんぽぽ 共催: 社会医療法人 平成醫塾 苫小牧東病院

後援: 北海道、北海道教育委員会、北海道医師会、一般社団法人北海道歯科医師会、一般社団法人北海道薬剤師会、公益社団法人北海道看護協会、北海道訪問看護ステーション連絡協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、公益社団法人北海道社会福祉士会、一般社団法人北海道介護福祉士会、一般社団法人北海道介護支援専門員協会、一般社団法人北海道町内会連合会、苫小牧市、苫小牧市教育委員会、一般社団法人苫小牧市医師会、苫小牧薬剤師会、とまこまい医療介護連携センター、社会福祉法人苫小牧市社会福祉協議会、苫小牧西子ども劇場、北海道新聞社、AIR-G'エフェム北海道、苫小牧民報社

【電話予約・お問い合わせ】



劇団 たんぽぽ

TEL:053-461-5395

ゆずり葉の季節

はる

〈演劇公演〉

〜最期まで地域で暮らすために、
在宅での医療や介護について考えませんか〜



絵／石川 拓人

2019年 **9月1日(日)** 上川町かみんぐホール(フレンドシップホール)
開演／14:00(開場30分前)

●料金／〈大人〉前売 1,500 円 当日 1,800 円 〈学生〉(高校生以下)前売 700 円 当日 1,000 円
(小学校低学年以下の入場はご遠慮ください。)

【チケット取扱い】・かみんぐホール TEL01658-2-2371・上川子ども劇場

チケットぴあ pia.jp/t (Pコード: 495961) セブンイレブンで購入可
0570-02-9999

全席自由

主催：公益社団法人教育演劇研究協会／劇団たんぽぽ 協力：上川子ども劇場

後援：北海道、北海道教育委員会、北海道医師会、一般社団法人北海道歯科医師会、一般社団法人北海道薬剤師会、公益社団法人北海道看護協会
北海道訪問看護ステーション連絡協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、公益社団法人北海道社会福祉士会、一般社団法人北海道介護福祉士会
一般社団法人北海道介護支援専門員協会、一般社団法人北海道町内会連合会、上川町、上川町教育委員会、社会福祉法人上川町社会福祉協議会
国民健康保険上川医療センター、社会福祉法人かみかわ福寿園、愛別町、愛別町教育委員会、北海道新聞社、AIR-G'エフエム北海道

【電話予約・お問い合わせ】



劇団 **たんぽぽ**

TEL:053-461-5395



文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
独立行政法人日本芸術文化振興会

厚生労働省推薦



主催／(公社)教育演劇研究協会 劇団たんぽぽ 共催／新十津川町

劇団たんぽぽ北海道・静岡県・香川県・徳島県巡回公演 はる

ゆずり葉の季節

〈演劇公演〉

〜最期まで地域で暮らすために、
在宅での医療や介護について考えませんか〜

絵／石川 拓人



2019年 **9月2日(月)** 新十津川町総合健康福祉センターゆめりあ 生甲斐ホール
開演／19:00(開場30分前) (全席自由)

●料金／大人1,500円 学生(大学、専門学生以下)1,000円 (小学校低学年以下の入場はご遠慮ください。)

チケット

(新十津川町)・ゆめりあ TEL0125-72-2000・(株)イースト文具商会・新十津川町図書館
(滝川市)・滝川市まちづくりセンター みんなくる
(砂川市)・砂川市地域交流センターゆう
(奈井江町)・奈井江町文化ホール



0570-02-9999

(Pコード: 495649) セブンイレブンで購入可

後援：北海道、北海道教育委員会、北海道医師会、一般社団法人北海道歯科医師会、一般社団法人北海道薬剤師会、公益社団法人北海道看護協会
北海道訪問看護ステーション連絡協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、公益社団法人北海道社会福祉士会、一般社団法人北海道介護福祉士会
一般社団法人北海道介護支援専門員協会、一般社団法人北海道町内会連合会、新十津川町教育委員会、滝川市、滝川市教育委員会
一般社団法人滝川市医師会、一般社団法人空知医師会、社会福祉法人新十津川町社会福祉協議会、北海道新聞社、AIR-G'エフエム北海道

【電話予約・お問い合わせ】



TEL:053-461-5395

演劇で観る「ささえあう命」のお話

劇団たんぽぽ「ゆずり葉の季節（はる）」

医療介護職員の研修としても、好評！

～人は誰もが老い、いつか最期を迎えます。その最期を地域で暮らすために・・・～

ご覧いただいた方々の感想より

- ・笑いあり、涙ありの素晴らしい舞台でした！！医療者側、家族側、そして何より本人さんの感情がリアルでした。
- ・ケアマネをしています。ご家族の方や、利用者様の事、考えるいい機会になりました。

- ・いろいろな立場、いろいろな人の感情が生々しく、涙があふれ、みんな同じ気持ちなのだと思わせられました。
- ・笑いあり、感激あり、素晴らしかったです。
- ・人生を生き切る中で、家族の在り方、大切さを学びました。
- ・涙を流したのは、久しぶり。生きる尊さと会話の大切さを知った。
- ・愛する家族に見守られながらも死の深淵に向かうことの心の動きを深く感じるようになりました。命を紡ぎ、つながっていく。私は何を残せるか。一日を精一杯生きていこうと感じました。
- ・現実的にはどうかなあ？今、自分は、この問題に悩んでいる所です。
- ・ぜひ、中学校、高校で公演をしてもらいたいと思いました。これからの若い人たちに観てもらいたい。
- ・看護師として、働いています。大変興味あるセリフや家族の気持ち、考えさせられました。これからのかわり方を大切にしていきたい。
- ・「死」に向き合うという、本当の意味がわかりました。
- ・家で看取ることの重み、とても複雑で簡単なものじゃないということを知りました。



旭川フリーペーパー「ライナー」2018年8月17日号掲載

家で看取ることとは 家族の姿を丁寧に描いた 舞台「ゆずり葉の季節」

劇団たんぽぽ

「あるある」と思える場面が散りばめられていると思います。今どきの女の子がおばあちゃんの変化と向き合う様子もみどころのひとつ。ぜひ中高生にも見てほしいです」と同劇団の松下哲子さん。

在宅医療をテーマにした劇団たんぽぽによる舞台「ゆずり葉の季節（はる）」が、9月1日（土）午後3時から旭川市公会堂（常磐公園内）で上演されます。

2013年に浜松市で開かれた日本在宅医学会の市民向け講座のために書き下ろしたオリジナル脚本。物語の主人公の息子は末期がんを宣告され、余生の過ごし方を考えるし、自らの最期を過ごすたいと考える息子の気持ちに気づいた息子の博之は医師に相談に行き、在宅医療生活が始



重たいテーマを扱っていますが、時折ユーモアも交えた家族の物語です

